

阿武隈川流域の古墳時代

福島大学 菊地 芳朗

はじめに

- ・ 阿武隈川流域（福島県中通り）、とりわけ中通り中～南部の古墳時代の遺跡動向から、この地域の歴史的な性格を考える。

1. 前期の遺跡動向

(1) 古墳の動向

- ・ 地域による相違が大きい。有力な古墳が築かれるのは、中通り中部と宮城県南部。
- ・ 中通り南部は確実な前期古墳が皆無。その意味は？

(2) 須賀川市団子山古墳の発掘調査成果

- ・ 前期後半に築造された墳長 65m の前方後円墳。後円部墳頂に円筒埴輪列が巡る。
- ・ 埴輪の特徴は、関東・中部の前期古墳のそれに類似するものの、まったく同じものは認められない。比較類似するのは、関東内陸部・中部高地の埴輪。
- ・ 中通り最南の前期古墳。その意味は？

(3) 集落・生産の動向

- ・ 古墳動向と基本的に対応する。中通り南部には前期集落が非常に少ない。

2. 中期の遺跡動向

(1) 古墳の動向

- ・ “空白期”と考えられてきた中期前半にも古墳がつくられていたことが判明（国見町塚野目 6 号墳、郡山市正直 21 号墳など）。ただし、なお少数。
- ・ 中期中葉から各地で古墳造営が活発になり、中期後半は古墳時代のなかで最も古墳が多くつくられる時期。埴輪をもつ古墳も多い。
- ・ 阿武隈川流域には仙台平野とともに有力な古墳が集中。最大の古墳は国見町塚野目 1 号墳（八幡塚古墳：前方後円墳 72m）。

- ・ 中通り南部にも古墳が現れ、有力な古墳も見られる。中島村四穂田古墳（前方後円墳？45 m）、泉崎村原山古墳群など。
- ・ 群小墳が広い範囲に成立（塚野目古墳群、正直古墳群、玉川村江平古墳群など）し、古墳の規模・副葬品内容にもとづく階層（ピラミッド）構造をみせる。

(2) 集落・生産の動向

- ・ 古墳動向と対応するように多数の集落が成立。特に中通り中～南部に集中。郡山市正直 A 遺跡や白河市表郷三森遺跡のように、大規模な祭祀施設をもつ集落もみられる。
- ・ 周囲に堀や柵列を巡らす大規模集落から数棟程度の小規模集落まで、多様な規模・施設・器物をもつ集落がみられ、集落の階層性が顕著になる。
- ・ 前期にほぼ認められなかった鉄器生産を行う集落が、中通り中～南部に集中（郡山市正直 A 遺跡、玉川村辰巳城跡、白河市表郷三森遺跡など）。この地域の生産力の高さを示す。
- ・ 埴輪をもつ古墳の多さにくらべ、埴輪窯の確認例が皆無に等しい。

3. 後期・終末期の遺跡動向

(1) 古墳の動向

- ・ 後期前半に古墳の築造が低調となるが、後期後半に横穴式石室墳が各地に成立。横穴も現れ、横穴式石室墳とともに群小墳を形成する（両者は基本的に同一古墳群では共存しない）。ただし、中通り北半には基本的に横穴がつかられない。
- ・ 阿武隈川流域には、装飾付大刀、甲冑、馬具などをもつ有力な墳墓が数多く分布（福島市上条古墳群、郡山市渚の上 1 号墳、白河市観音山横穴群など）し、東北随一の集中ぶりをみせる。
- ・ 中通り中～南部の有力古墳には、北関東の古墳との顕著な共通性がみられる（分離造形埴輪；須賀川市塚畑古墳、基壇；白河市下総塚古墳、須賀川市市野関稻荷神社古墳など）。
- ・ 阿武隈川流域の横穴は、茨城県域から那珂川流域を經由し波及したとみるのが妥当。泉崎村泉崎横穴は、内陸部で唯一の装飾壁画をもつ。
- ・ 終末期の中通り中部と南部に、大型の切石をもちいた精美な石室をもつ古墳がつくられる（須賀川市稲古館古墳、玉川村宮前古墳、白河市谷地久保古墳など）。

(2) 集落・生産の動向

- ・ 大規模集落が新たに成立し（本宮市高木・北ノ脇・山王川原遺跡、白河市舟田中道遺跡など）、それまで集落が少なかった釈迦堂川流域にも現れる。また、高木遺跡と舟田中道遺跡では、後期前半には確認できなかった首長居館も営まれる。
- ・ 後期前半に見られなかった須恵器生産が再度はじまる（福島市宮沢窯、須賀川市釜池窯など）。鉄器生産も小規模ながら継続していた模様（本宮市高木遺跡）。
- ・ 終末期後半（7世紀後葉）に集落や生産の終焉や新たな開始が認められ、古墳時代から律令国家体制への転換がはかられたと推定。

おわりに —阿武隈川流域の歴史的性格—

- ・ 南北に長い回廊状の内陸地形により、古来、関東と東北を結ぶ重要幹線・地域として機能。ただし、東西を結ぶ幹線の役割も大きく、郡山市周辺のように東西南北の結節点となる場所には有力な墳墓や集落が展開する。
- ・ 小規模な盆地が南北に連なることにより、広域的な政治的・社会的結合が成立しにくかったと推定。このことが100m超の古墳が阿武隈川流域に存在しない原因か。
- ・ 古墳時代をつうじ繁栄を続ける地域・古墳群は認められず、時期により最有力地域・古墳群が変転する（このことは阿武隈川流域外でも同様）。
- ・ 前期～中期は、中通り中部・郡山市周辺が最有力の位置を占めるが、前期においては、会津や浜通りにくらべ阿武隈川流域の相対的な位置はやや低い。前期の中通り南部に古墳・集落がほとんどみられないことの原因は不明確。気候の寒冷化もありうるが...
- ・ 中期以降、阿武隈川流域の地位が上昇。特に中期中葉以降の中通り南部の上昇が顕著で、後期後半以降は東北最有力の位置にいたる。一方、中通り北部も有力な位置を占める。
- ・ 後～終末期には、墳丘・石室規模、顕著な副葬遺物、大規模集落等において他地域を圧倒し、東北の入口かつ北方社会との窓口として、ヤマト政権・律令国家から最重要視される地域の一つとなる。このことが、奈良時代以降のこの地の歴史的な性格を決定づける。

【おもな文献】（報告書は割愛しました）

菊地芳朗 2010『古墳時代史の展開と東北社会』大阪大学出版会

菊地芳朗ほか編 2013～2019『団子山古墳 1～7』、福島大学行政政策学類・福島大学行政政策学類考古学研究室

菊地芳朗編 2015『阿武隈川流域における古墳時代首長層の動向把握のための基礎的研究』、福島大学行政政策学類

菊地芳朗編 2019『古墳分布北縁地域における地域間交流解明のための実証的研究』、福島大学行政政策学類

時代	弥生時代	古墳時代					奈良時代					
時期		早期	前期	中期	後期	終末期						
年代	AD 200	300	400	500	600	700						
須恵器			T K 73	T K 216	T K 208	T K 23	T K 47	M T 15	T K 10	T K 43	T K 209	飛鳥様式
土師器		塩釜	南小泉	引田	佐平林	舞台	栗園					
古墳		古墳 1 期	古墳 2 期	古墳 3 期	古墳 4 期	古墳 5 期						

図 1 本報告の時間軸〔菊地 2010〕

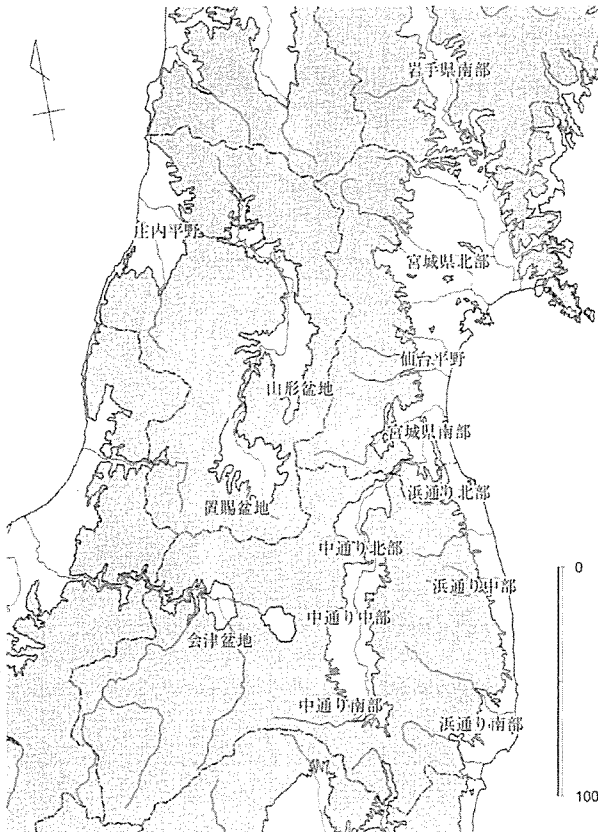


図 2 北縁地域の地域区分〔菊地 2010〕

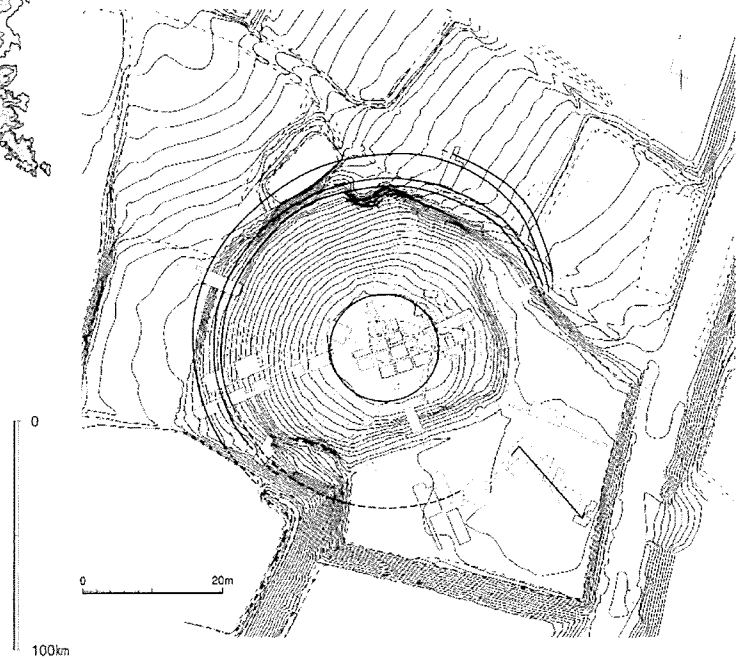


図 3 福島県須賀川市団子山古墳〔菊地編 2020〕

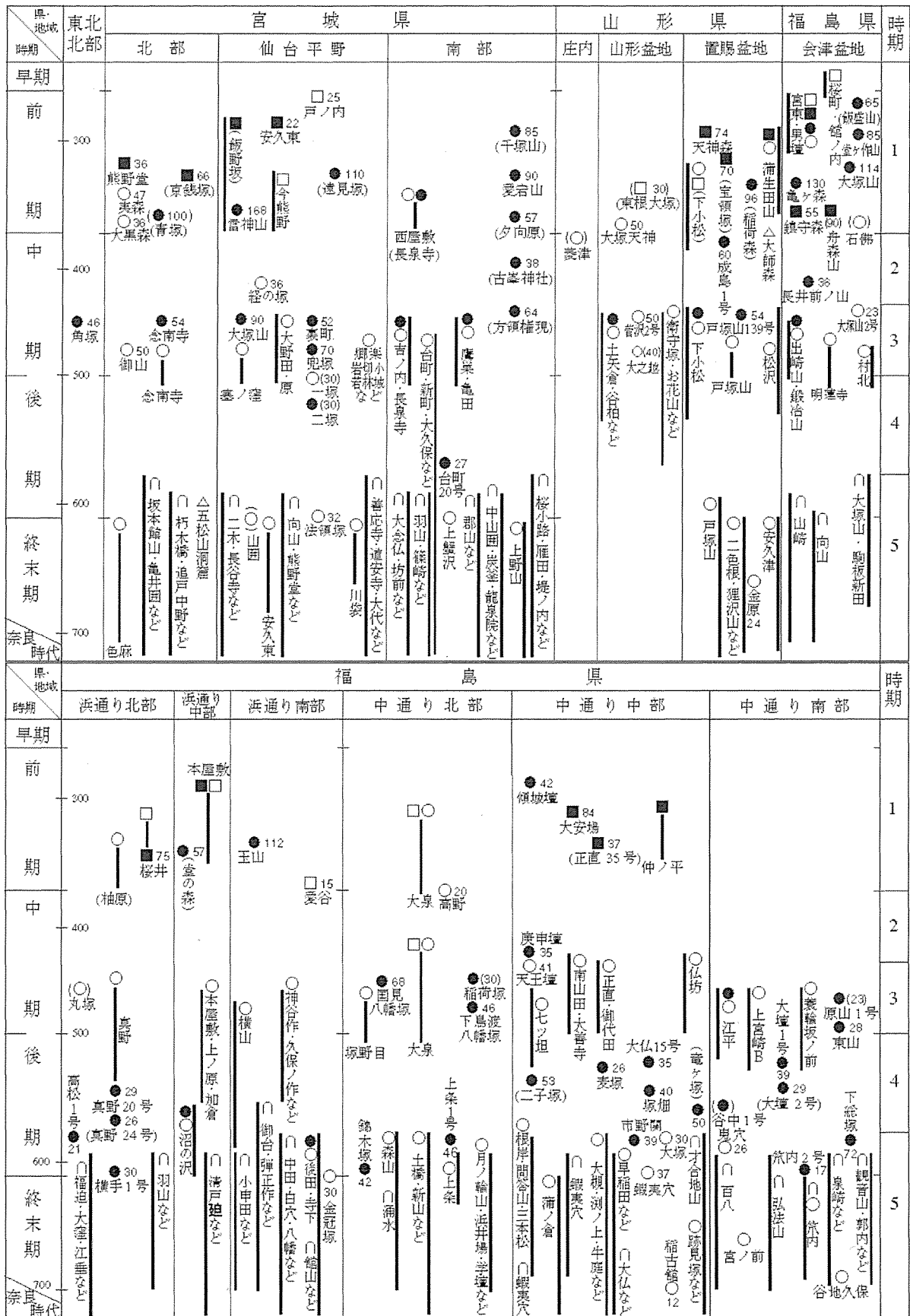


図4 古墳の編年〔菊地 2010 一部改編〕

